

地域支援だより

県立南薩養護学校
校外支援係
No. 5
令和3年9月10日

2学期 巡回相談 始まります

2学期の巡回相談は、9月22日（水）から始まります。2学期は26件の依頼がありました。各学校には、教頭先生のメールアドレスに詳細をお知らせしてあります。事前シートは3日前までに、実施申請書は早めに市教委へ提出してください。授業参観後の面談では、担任の先生だけでなく、管理職の先生にも入ってもらいたいと思います。感染対策を図って来校しますので、よろしくお願い致します。1学期の巡回相談から事例を紹介します。

○ 子どもたち同士の学び合いタイム（A 小学校）

→ 自分の課題が終わったら、まだ終わっていない友だちに教え合う場を設定していました。これには、4つの効果があると思います。

① 意図的に子どもを動かすことは多動傾向の子どもには有効です。

② 自分の理解が深まり、定着します。
友だちに分かるように教えるためには、自分がしっかり理解していないと教えられません。

③ 先生一人が個別に机間指導をしたく

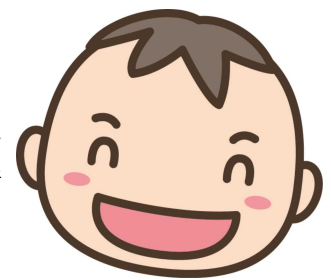
ても時間が足りないことがあります。子ども同士を活用することで支援の必要な子どもに個別指導ができます。

④ 「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の授業につながります。



交流学級担任A先生の思い出

今から、30年ほど前の話です。私は小学校の特別支援学級担任をしていました。在籍児が6人いて、にぎやかで楽しいクラスでした。ある日、特別支援学級ではよくあることですが、作品づくりのために6人がそろって学習する時間をつくるために、4年生一人の2校時の音楽の交流学級での学習を変更してもらうことにしました。そこで、4年生のBさんと一緒に、A先生に「先生、すみませんが、なかよし学級で2時間目に作品づくりをやりたいので、Bさんの授業を変更していいですか」とお願いに行ったのです。今までは、どの交流学級担任も「いいですよ。Bさん、がんばって作品づくりしてね。」と送り出してくれたのですが、A先生は違っていました。A先生は開口一番「それは困る。」と言われました。そして、Bさんをぐっと抱き寄せて



「あなたがないと困るのよ。」と言って抱きしめられました。

そのときのBさんの満面の笑顔は今でも忘れられません。そして、しばらく経ってから、「でも、あなたが行かないと中菌先生が困るから仕方がないね、作品づくりがんばってね。」と送り出してくれたのです。特別支援学級の子どもを含めて子どもたち一人一人を大切にするA先生の姿勢に頭が下がる思いでした。

A先生はどこの学年を担当されても、学級づくりは抜群でした。学級PTAでは、保護者に「6年生までは、子どもを抱きしめなさい。」と話をされていました。クラスが温かく、どの子にも居場所がある学級づくりが今、求められています。

（文責 中菌）